

沖縄版・企業支援による コロナへの挑戦（セミナー）を開催

主催：内閣府沖縄総合事務局、（独）中小企業基盤整備機構沖縄事務所

未曾有のコロナ危機が世界的に社会・経済に大きな影響を及ぼしている中、沖縄総合事務局と中小企業基盤整備機構との共同主催で、今後重要性を増す事業再生支援等について、地域金融機関や支援機関の役職員を対象とした、知見・ノウハウを醸成するセミナーを開催しました（令和3年2月19日）。

基調講演は沖縄総合事務局初となるYouTube（※）でLive 配信しました。視聴数は、Liveで150回、アーカイブで500回（4月1日現在）を超えて視聴され、多くの方々に地域の関係者が連携して円滑に事業者支援を進めていく意義を発信することができました。

（※）現在も配信中。（<https://www.youtube.com/watch?v=JbxZTXNxM6M>）

分科会では、参加者から事前にコロナ禍における事業再生の課題等を集約し、講師はその課題を踏まえた講義資料を作成することにより、当日の討議レベルの深化、熱量の高い意見交換を実現しました。

沖縄総合事務局としては、今後も、こうした企業支援機関向けのセミナーを継続して実施し、持続的な地域経済エコシステムの形成、並びにコロナ後の経済の力強い回復を後押ししていきたいと考えています。



主催者挨拶

- 内閣府沖縄総合事務局 局長 吉住 啓作
- （独）中小企業基盤整備機構沖縄事務所 所長 船崎 康治

基調講演

- 沖縄県中小企業診断士協会 会長 神谷 繁 氏
テーマ「アフターコロナに求められる沖縄の中小企業支援のあり方」
- 金融庁 監督局地域金融企画室長 日下 智晴 氏
テーマ「地域経済エコシステムと事業者支援」

分科会（3グループ／各約10名・半数はオンライン参加）

- 島根県信用保証協会 営業部長 小野 拳 氏
テーマ「踏み込んだ伴走型企業支援、地域連携」
- 北門信用金庫 営業第二本部企業支援室長 伊藤 貢作 氏
テーマ「アフターコロナに関する企業再生実務の隘路」
- みちのく債権回収株式会社 代表取締役社長 坂本 直樹 氏
テーマ「地域サービサーによる中小・零細企業支援」

基調講演

沖縄県中小企業診断士協会 会長 神谷 繁 氏

コロナ禍で中小企業に起きた事

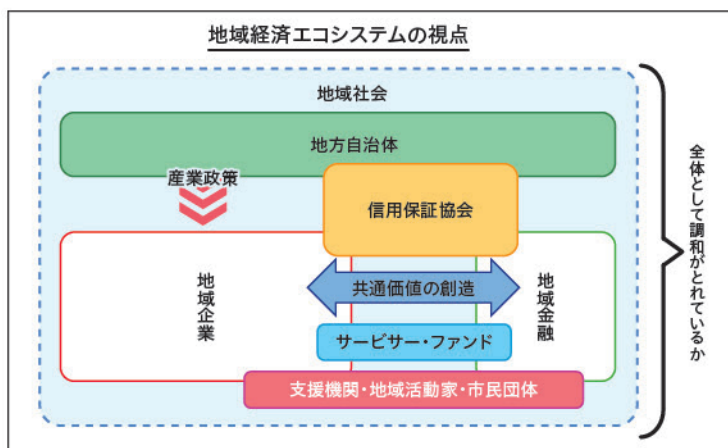
アフターコロナで支援機関が求められている支援

- ・沖縄県における支援機関とは
- ・支援機関による中小企業支援の役割
- ・求められる中小企業支援とは ・中小企業支援の目標
- ・目標達成に向けた組織づくり ・フォローアップ体制の充実

「アフターコロナに求められる沖縄の 中小企業支援のあり方」

- 神谷会長は、これまでバンカー、中小企業診断士として中小企業支援を実施してきた立場で、アフターコロナにおける中小企業支援に尽力すべき要諦を提言。
- 中小企業の廃業の増加懸念や膨れ上がった債務に対する償還能力の向上（新たなビジネスモデルの構築等）を指摘した上で、中小企業支援の目標達成に向けた新たな連携体制を構築すべきではないか。

地域経済エコシステムの視点



令和2事務年度行政方針

コロナ禍の影響も踏まえた地域経済の実勢・地域経済エコシステムの実情について更に理解を深める(地域経済インテリジェンス)

「地域経済エコシステムと事業者支援」

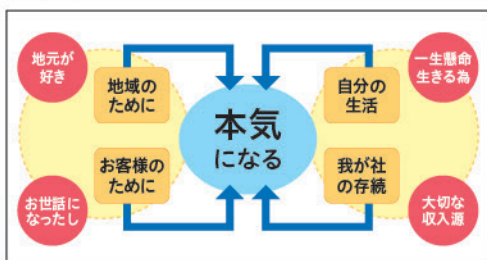
●日下室長は、地域経済エコシステムの実現の観点で、様々な問題提起を行った上で、事の本質はシンプル、沖縄の支援機関が、アフターコロナに向けてひとつになり、困っている人をどうやって助けるかに尽きると指摘。

●地域金融機関同士が経営理念・戦略にそぐわない方法で顧客を奪い合うのではなく、顧客に価値を提供するプラスサムの競争を行い、お互いが手を結ばなければいけないところは手を結び、様々な顧客ニーズに対応することが、地域経済エコシステムの要諦である。

●事業者支援は、事業者の知的資産の把握と、財務情報(債務超過)の把握を正しく行い、本業支援、金融支援を行っていくことが重要である。



●経営改善計画への取り組みに際し、経営者のモチベーションを保つアプローチ



分科会1

島根県信用保証協会 営業部長 小野 拳 氏

「踏み込んだ伴走型企業支援、地域連携」

●小野部長は、事前に分科会参加者から寄せられた質問の趣旨を改めて確認しつつ分科会を進行。

●コロナ禍で企業支援に対する人的リソースが不足する中での地域金融機関と信用保証協会の役割分担については、信用調査など、お客様に“近い”組織、人がやれば良い。関連事項も多く、お客様も二度手間に。保証申込の一連の流れからわかるように、こうした情報は“共有”し、融資(保証)実行後のフォローも含め、協働・分担することが重要。

●ウィズコロナにおける事業の見極めについて、敢えて汎用的な基準を考えるとすれば、コロナ前はどうか、コロナ後の“7割経済”で耐えられるか、消費行動の変容に対応できるかなど。また、創業者支援時に行う手法を応用し、取扱商品、技術、サービスのブラッシュアップをするのも一手。



分科会2

北門信用金庫 営業第二本部企業支援室長 伊藤 貢作 氏

「アフターコロナに関する企業再生実務の隘路」

●伊藤室長は、事業再生に22年間携わっている等の経歴紹介の後、事前に寄せられた質問がシンプルで核心をついた質問が大変多かったこと、その全てに応える資料を作成したことを説明し、分科会を進行。

●コロナの長期化で資金繰り維持が困難で出口が描きにくい企業への資金支援、追加融資への対応は、部分継続可能か(事業譲渡等の可能性あり)、地域の生活インフラに直結するか(再生フェイズへの移行はできるならDIP資金)、実質債務超過かどうか(「借るのか?」「辞めるのか?」地域雇用との関連もある)、社内(社長)の意思とのマッチング(後継者(後継体制)の意思)の4つの視点で考えられるのではないかと。



分科会3

みちのく債権回収株式会社 代表取締役社長 坂本 直樹 氏

「地域サービサーによる中小・零細企業支援」

●坂本社長は、参加者から事前に受けた質問に対し、ポストコロナの金融支援策の中で、サービサーによる再生が、債権取得による持続支援、ファイナンシャルスポンサーとなることでの選択と集中支援、ファンドを利用した債権取得とエクイティ支援といった多様な事業再生に対応できる観点で、サービサーの機能、活用のメリットを説明。更に、10以上の再生事例を使って、サービサー活用のポイントを具体的に説明。

●金融検査マニュアルが廃止された今、債権の判定・評価が一律ではなくなったが、企業への対応に当たって、債権に対する正しい見方、適切な評価をすることに一番近い立場がサービサーではないかと。

参加者のアンケート結果概要

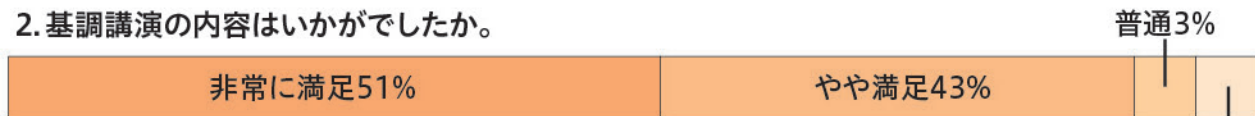
沖縄版・企業支援によるコロナへの挑戦(セミナー)

(令和3年2月19日開催)

1. ご職業



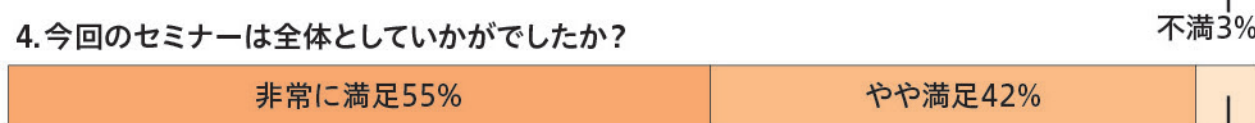
2. 基調講演の内容はいかがでしたか。



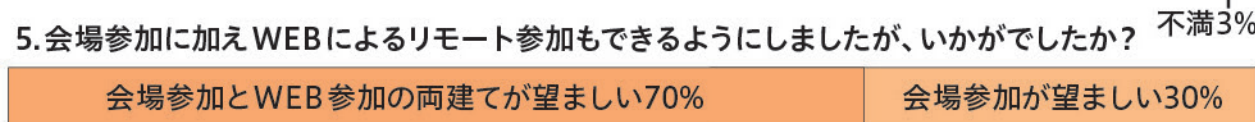
3. 分科会の内容はいかがでしたか。



4. 今回のセミナーは全体としていかがでしたか？



5. 会場参加に加えWEBによるリモート参加もできるようにしましたが、いかがでしたか？



●基調講演について、共感したこと、疑問に思ったこと

- ・事業性評価をするうえで知的資産分析の重要性が高いことが共感できた。
- ・疲弊する中小企業者の現状と今後について、支援機関の一員として果たす役割を考える良い機会となった。
- ・「コロナ後、顧客の戻りの早さ＝事業性の有無であり、事業性評価の答え合わせになる」というところで、各行の事業性評価を問われることになると感じた。

●分科会について、共感したとこと、疑問に思ったこと

- ・県外の保証協会における金融機関との関わり方に驚いた。沖縄でも初回相談時から協調を前提に複数行と意見交換する等、取り入れられる施策があると感じた。
- ・外部講師を招へいすることで、県内の支援者が、活発に意見交換しやすい環境が整っていると感じた。
- ・先進的な保証協会の取組を伺うことができ、有意義でした。
- ・資本金やD E S、債権カットなど、さまざまな切り口で解説していただき、当行で実施する際のヒントとなるものと思われる。
- ・コロナの中での企業支援について事例紹介や考え方の話は、コロナ以前とコロナ以後の対応策の違いが整理でき参考となった。事業先へ融資を引き出す事業計画を求めることなく、コロナの現実に対し金融機関・お客さまが向き合い、廃業支援も含めた支援と一緒に考えることを進めていく必要性を再認識できた。
- ・サービスが事業再生に取り組むにあたり、その役割の重要性、柔軟性を事例をあげわかりやすく解説いただき非常に参考になった。
- ・企業再生についての事例等をご教示頂けたことは参考になりました。今後の企業支援についてはサービスとの連携がこれまで以上に必要になると感じました。

●その他セミナーに係るご意見

- ・未曾有の状況で難しい対応を迫られているなかにおいて、大変参考になる話を伺え、かつ、士気もあがった。
- ・大変有意義なセミナーであった。分科会は、会場で参加したことで、講師の経営支援に対する熱い思いを直接感じることができた。
- ・コロナの影響により観光関連産業の痛手は計り知れないものがあり、県経済全般に大きな打撃を受けている。行政、民間団体、金融機関、サービス等が強固に団結し強い沖縄を取り戻せたらと思う。
- ・Webによるリモート参加は初めてで操作方法に手間取った。
- ・Web参加であったこともあり、質問のタイミングが難しく結果的に質問できなかった。私個人が初めてのWeb会議参加で不慣れであったこともあるが、会場参加と違い雰囲気がつまみづらかったこともあるため、会場参加のみの会議より質問の時間を長めに設定してもよいと感じた。